

2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/31

<p>団体名</p>	<p>一般社団法人ヒガシミノ団地</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>独立・持続可能な仕組みとコミュニケーションを提供する子供食堂・学習支援の場</p>			
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>			
<p>● 地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体の実現したい社会状況（ビジョン）は、非営利組織・地域住民・企業・学校など多種多様な主体が、自助・共助・互助などの関係性で、多機能拠点運営や新たな時代の公共サービスを担うことが、今後構築される望ましい社会状況です。具体的に弊社の例をあげると飲食事業・宿泊事業などの利益の一部を地域に還元するために共助・互助の関係性で今回申請している事業などを構築されるネットワークや自主財源で継続実施していくことです。</p>		<p>活動の様子 1</p>			
<p>● 団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体の社会的役割（ミッション）は、行政に代わる新しい公共サービスの担い手になることです。具体的には以下のようなサービスを提供しています。 ①教育事業 STEM教育の提供の場づくりや、地域と連携した域学連携の学びの機会の創出を行い。地域内の子供たちに平等な学びの機会と多様な相手と関わることで身につくコミュニケーション能力の向上に努めています。 ②コミュニティ事業</p>					
<p>● 団体の活動基盤</p>	<p>当団体が上記社会的役割を十分に果たすためには、以下のような活動基盤があることが理想的である。 ●望ましい人的資源：事業のマーケティングからファンディングまでを管理でき、プロジェクトを運営できる中核人材が1名常勤スタッフとして新たに加わり、そのもとで2名のスタッフが活動している ●望ましい物的資源：フードバンク・フードパントリー事業での食支援活動における支援物資が、企業や他団体・助成などを受けて定期的に開催できる程度安定した資源があること。 ●望ましい活動資金：自主財源での事業運営による利益が生まれ、それと併用する形で様々な助成金などのサポートを得る形で活動資金が回っていること ●望ましい情報：行政・学校・他団体と当団体が密に情報を交換し、互いに助け合える情報を共有できる。もしくは必要な支援にマッチングできる情報共有</p>					
<p>■ 活動報告</p>			<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>			
<p>●子ども食堂：昨年に続き高校生・大学生などの様々な主体が参画して、ひとり親の方々を中心とした子どもたちへの食事や居場所のサービスを提供することができました。学生ボランティアとして参画した子は大学や高校を卒業する為途中で事業に参加できなくなりましたが、就職してから休みなどを利用してまた参加してくれる方もいてすごくいい流れができています。また事業の後半より社員による運営も始まり、事業として定着して来ています。 ●フードパントリー（お弁当）：現在は20世帯50名くらいの方々をフードパントリーで支援できるまでに成長しました。利用者さんも利用方法が定着してスムーズに受け渡しができるようになりました。 ●フードパントリー（支援物資）：物資が少ない中でも自己財源などで購入することで継続して物資を提供できた。現状でも市内に支援物資を渡す取り組みは弊社しかいないため、継続していく必要がある。 ●運営： ボランティア主体の運営から社員主体の運営に移行できた。</p>			<p>●子ども食堂：多様な相手と関わりコミュニケーションを楽しめる子供食堂及び学習支援の実施については合計21回実施し、延べ参加人数は205名となりました。 ●フードパントリー（お弁当）：ひとり親世帯を対象とした子供との対話の時間確保を目的としたフードパントリー（お弁当）については合計46回実施し、ひとり親の方々へのアンケート調査にてゆとりが生まれた時間についての回答が20世帯中18世帯の回答で60分以上が10%、60分が70%、45分が10%、30分が10%となりました。 ●フードパントリー（支援物資）：生活困窮世帯及びひとり親世帯に向けたフードバンク及びフードパントリー合計46回実施しました。これにつきましてもアンケート調査より20世帯中18世帯の回答でフードパントリーにより心のゆとりが生まれたとの回答が90%でした。 ●運営：事業運営マニュアル及び広報用資料の作成については、ボランティアスタッフの運営から社員による運営に変わったことで、マニュアルに沿った安定した運営ができるようになりました。</p>		<p>活動の様子 2</p>	
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>	
<p>①取り組みを行い、ひとり親の方々の認知度が高まって来ていることで、広報PRについてどのように勧めていくのがいいのかわかりやすくなりました。 ②継続して岐阜県の社会福祉協議会などや外部の支援を行う団体との連携ができています ③ひとり親の方々とのコミュニケーションの取り方やニーズ（何を感じたり、どの様なサービスが喜ばれるのかなど）をコミュニケーションの中で得ることができた。</p>			<p>①支援物資が不足しているもしくは偏りがある（賞味期限などがあるため）ため不足を補う必要があり。バランスのいい物資の提供は難しいと考えている。お米に関してはやはり喜ばれるものなので、今後もお米は提供し続けたい。 ②情報を提供する仕組みづくりについては、行政しかひとり親の世帯を把握していないがその情報を活用することはできないため、行政の協力が必要である。今後は、行政との関係性を深めることが課題である。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>中津川市で初めての毎週お弁当及び支援物資・学習支援を継続実施し、無償の食事提供を延べ約750名を達成しました。</p>
<p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p>フードパントリーや子供食堂においてコミュニケーションが増え、子どもから笑顔で「ありがとう」と言ってもらえる。</p>			